

地域とともに歩む池

～ 大山上池・下池 ～



特集 ため池と生きる

人と池の関わり

大山上池・下池は、鶴岡市の西部に位置する大小2つのため池で、江戸時代に、水害対策と農業用水の水源として築造されたと伝えられ、現在も続く「浮草組合」では、両池のハスやレンコンなどの水生植物を収穫し販売している。

昭和初期は湧水などが豊富で、数年に一度は池の水を抜くことで水質が保たれていたため、ジュンサイが生育し、池で泳ぐ子供達や貸舟で舟遊びをする姿があった。また、下池のほとりには料理店があり、両池に生息するコイやフナ、ウシガエルがふるまわれるなど、両池の地域資源を活用した生活が存在した。地域の人々は生活の中で両池を活用して暮らしてきた。

ラムサール条約登録湿地

現在は、池に流入する湧水の減少などによる水環境の変化から、こういった光景はみられなくなつたが、コハクチョウをはじめ多くの水鳥の越冬地となつていることなどから、

両池は2008年に「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」ラムサール条約登録湿地に、県内初の指定がされた。両池周辺の自然環境が国際的にも高く評価されている。



下池に飛来したコハクチョウの群れ



高館山の風景

大山上池・下池に水を供給する高館山

両池の背後には標高274mの高館山があり、両池の重要な水の供給源となっている。江戸幕府の直轄領であったことから森林伐採が禁じられていたため、貴重な動植物が息する環境が残っている。

上池・下池や高館山には散策道があるため、それぞれのコースで四季折々の自然を楽しむことができる。

大山上池・下池周辺の春

春先に開花し夏まで葉をつけると、あとは林床などの地中で過ごす花を総称して「スプリング・エフェメラル（春の妖精）」と呼ぶ。また、春のわずかな期間にのみ現われるギフチョウはその姿から「春の女神」と呼ばれる。



キクザキイチゲ



カタクリ



ギフチョウ

【周辺施設の紹介】



- 鶴岡市自然学習交流館ほとりあ
下池に隣接する都沢湿地の保全活動をしている施設。
TEL:0235-33-8693
HP:<http://hotoria-tsuruoka.jp/>

